

令和6年度 矢田中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	57	49	37	4.7	22.7
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	57	51.5	41.5	35.6	35.9	36.9	8.2	8.0	24.1	10.8	12.0
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	53.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.3	6.5
	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.4	53.6	5.3	5.0	14.8	5.0	6.9

令和6年度 矢田中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

●全国学力・学習状況調査結果

全体の平均正答率を全国平均と比べると、国語は9.1ポイント、数学は15.5ポイント下回った。
また平均無解答率は上回っておりなかなか厳しい結果になっている。教科ごとの結果は以下の通りである。

【国語】

平均正答率はそれぞれ「話すこと・聞くこと」においては8.2ポイント、「書くこと」においては12.6ポイント、「読むこと」においては10.4ポイント全国平均より下回っており、「書くこと」、「読むこと」については10ポイント以上となっている。これについて国語の授業だけでなく日常生活の中で新聞を読んだり読書の習慣を身に着けると共に読んだものについての感想や趣旨をまとめ、グループでコミュニケーションを図る習慣を身につける必要がある。また、無解答率の高い問題としても周りの会話を通し、自分の考えをまとめたり、そのまとめた考えを文章化することがなかなか難しいようである。これについてもいろいろな社会現象などに興味を持ち、自分の考えを発表し、いろいろな考えをまとめる習慣を身につけてほしい。

【数学】

平均正答率はそれぞれ「数と式」においては20.9ポイント、「図形」においては18.7ポイント、「関数」においては15.1ポイント、「データの活用」においては9.4ポイント全国平均より下回っている。特に「数と式」においては20ポイント以上全国平均と開きがあり、これについては基本的な計算の手順の確認や文字式を使った計算や文字の意味についてもしっかりと再確認する必要があるように思われる。さらに、基本的な数学の考え方を文字などを使って一般化して説明することを身に着けることも大切である。「図形」や「関数」の領域においても基礎的な内容の意味を理解して練習問題等に取り組み内容の定着を図る必要がある。その上でいろいろな現象を数学的にとらえる応用問題にも取り組むことが大切である。他の3領域に比べて「データの活用」の領域については基本的な考え方は少し身に付いておりもう少し練習に問えり組めば抽象的な問題にも取り組んでいけるようになると思われる。

【今後に向けて】

基礎的、基本的な計算力や知識の定着を図るとともに、予習や復習の家庭学習を習慣化する必要がある。また、問題の内容や量によっては考えることをあきらめてしまう傾向が強いので粘り強く考えられる力をつけることが必要になる。そのためにもスモールステップを活用し、簡単な内容のことから少しずつ難易度を上げて反復練習をするとともに学習内容に興味・関心を持たせるような課題の精選を行い、自ら学ぶ意欲を育てていきたい。さらに、グループ学習などを通し、他の人の意見を聞き、それを参考にして自分の意見を考え、まとめ、発表する力を身に着けていきたい。

●中学生チャレンジテスト(3年生)

<成果>

平均点は大阪府と比較して、5教科トータルで74%。国語では79%、社会では82%、数学73%、理科68%、英語69%という結果となった。
社会、国語では大阪府平均に対して8割程度に到達しているが、理科、英語では7割に到達していない。1年生時の数学の対府平均と比較して、総合で1.5ポイント向上している。

<課題>

各教科において25未満の生徒の数が多かった。基礎・基本事項が定着できていない状況で3年生の内容を一斉指導で進めることが厳しいと考えられる。

【今後に向けて】

各教科において、過去問題や類似問題などの取り組みと、基礎・基本の定着を図り生徒の学力向上を図る。
また、授業規律を確保し、生徒の学習状況に適した指導方法を進める。